



東京眼鏡販売店協同組合 理事長 白山 聡一

令和2年の年頭にあたり眼鏡業界内外の関係各位に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素より私ども東京眼鏡販売店協同組合の活動に、格別のご理解ご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

当組合では、昨年5月の通常総会に於いて役員改選を行い、私、白山聡一は理事長を再任され、第二期を務めさせて戴いております。皆様におかれましては第一期同様、ご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

さて、私が理事長を拝命いただいて以来、当初より掲げております当組合の課題は大きく分けて3つあります。(1)組合員数問題、(2)加盟店皆様の商売の発展に寄与する事業の促進、(3)(公社)東京眼科医会との関係改善です。

事業活動の全てが一番目の組合員数問題に相関しますが、最重点と位置付けているのが、メガネの日イベント「めがね供養会」であり、昨年も10月1日に開催いたしました。前回第6回より、店頭商売への販促支援として役目を終えたメガネの回収に際して、お持ちいただいたお客様に、共通クーポン券の配布

今までとは違う価値基軸を見据え

を第7回も継続いたしました。また、学校法人東京眼鏡学園 東京眼鏡専門学校と協働で、供養を終えたメガネの中から良品を選んで、再活用へのメンテナンスを施し、海外へ寄贈する取り組みを本事業の新たな骨子として、第6回より実行し、昨年4月に組合員がスリランカへ渡航し、約50本のメガネを現地の皆様にお渡ししました。供養会事業として首尾一貫した理想的な進化を遂げ完結でき、ご寄贈いただいた方々と、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。引き続き、昨年行った第7回供養会も同様の計画で進めております。

3つ目の課題、(公社)東京都眼科医会との連携回復については、同会が主催する目の愛護デーイベント「Tokyo Eye Festival」への参加を、関係改善の第一の目標としておりましたところ、同会の先生方のご理解を得られ、ついに昨年10月13日開催の「第7回Tokyo Eye Festival 2019」には、実に(同会のイベント参加として)10年ぶりに参加が実現しました。

その他、従前より引き続き、共同購買事業、(公社)日本眼鏡技術者協会 東京都支部と連携した講習会参加、青年部活動として異業種交流・勉強会の開催などを行いました。

以上の事業活動を行いつつ2019年一年間で、当組合は4人の新規加盟をお迎えすることができ、2人の退会を差し引き2人の加盟数増加の結果を得ることができました。本年中には、組合加盟の基準が東京都の枠に縛られることなく拡大できるようになります。それに伴い当組合も、東京都中小企業団体中央会のご指導のもと、日本眼鏡販売店連合会と調整を図りながら、近隣他県からの加盟を促進しスケールアップを計画したいと考えています。いうまでもなく組合員数問題とは、加盟をするメリットがあるかが重大な動機でありますから、メリット即ち事業内容の魅力強化充実を第一に取り組んで参る所存です。

近年、眼鏡業界全体が組織団体の枠組みを大きく変えなければならない局面にあります。日本眼鏡関連団体協議会とその傘下組織8団体と連携して、これらに帰属するメリットを最大限に駆使して、今までとは違う価値基軸を見据えながら、地域に根ざした眼鏡店の発展に寄与できる組合運営を目指して参ります。

関係各位には変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



日本眼鏡卸組合連合会 会長 東京眼鏡卸協同組合 理事長 蟹江 一郎

昨年9月、非常に強い勢力を保ったまま台風15号は関東を直撃し、多くの地点で観測史上最も強い風を観測し、記録的な暴風となりました。そのわずか一か月後の10月には台風19号が日本列島を襲い、全国各地で猛烈な暴風雨に見舞われ、1都12県で大雨特別警報が発令され、長い時間にわたり停電と断水、固定電話や携帯電話あるいは無線ネットワークの断絶などが発生いたしました。気候変動による災害の激甚化で、今までの想定を超えることが次々に起きたことは事実ですが、それよりも日本の社会生活を支える基本的なインフラがすべて劣化しつつあるために、それに耐えられなくなっていることを改善しない限り、毎年同じような悲劇を繰り返すことになるのではと危惧いたしております。眼鏡業界でも取り組みはじめたSDGs(持続可能な開発目標)の13番目のゴールである「気候変動に具体的な対策を」について、真剣に考えてみる

購買意欲を高め、市場拡大を図る

時期がきたのではないのでしょうか。昨年11月、上場企業の2020年3月期の純利益合計が前期比4.9%減の27兆7,656億円と、2年連続で減益になる見通しであることが発表されました。米中貿易摩擦に伴う世界経済の減速が響いた製造業では14.7%も低下して苦境が鮮明になりました。日本国内の個人消費も先行き不透明感が強まっており、安倍政権の経済政策「アベノミクス」は試練を迎えることになりそうなる雲行きになってまいりました。

眼鏡業界では、ここ数年市場規模は停滞しておりましたが、昨年は厳しい状況が続き、昨年10月の消費税増税後は一段と厳しい状況が継続しております。需要拡大には至っていませんが、眼鏡業界間でシェアの奪い合いになっております。眼鏡市場を活性化し、他の市場、眼鏡以外の商品に負けずにエンドユーザーの購買意欲を高めていくことが益々重要となってまいります。正しい眼鏡、健康に役立つ眼鏡、眼鏡の魅力、眼鏡をかける楽しさ、ファッションとしての眼鏡などを業界全体で発信し、市場拡大を図らなければなりません。その中で、私ども卸組合も各業界団体と連携を図りながら、力を合わせて業界発展に努めてまいります。

当組合に於いては、事業の中核を担う共同宣伝事業の中で、ご出展協賛いただけるメーカー・商社の皆様、ご来場いただける小売店の皆様の温かいご支援に支えられながら、当組合主催の「ワールドオブチカルフェア」を半世紀以上にわたり毎春継続して開催してまいりましたが、今春は4月7日(火曜日)～8日(水曜日)両日、前回同様「ベルサール高田馬場」に於いて「2020年ワールドオブチカルフェア」を開催いたします。4月の2回目の火曜日開催されておられる他の集合展・個展などと異なる相乗効果をもたらす、4月の眼鏡総合展として新たな魅力を増して開催し、眼鏡業界の向上発展あるいは業界活性化に貢献してまいりたいと考えております。

昨年10月、当組合通常総会での役員改選の結果、私が三度理事長を務めることになり、今後は新陣容をもってなお一層組合発展のため、延いては眼鏡業界発展のため努力いたします所存でございます。

末筆ではございますが、改元から半年以上が経ち、新元号「令和」もすっかり定まっております。本年夏には二度目となる「東京オリンピック」も開幕いたします。激動の平成とは異なり新年が穏やかな年となるよう、また、我が業界の皆様のご繁栄とご健勝を祈念し、また、私ども卸にもなお一層のご指導とご支援を賜りますようここに謹んでお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

明けましておめでとうございます。



昨年は天皇の退位並びに新天皇の即位に伴い元号が変わり、オリンピックが来年に迫る中、五輪絡みでスポーツの話題が満載で加えてW杯のラグビーでの日本の健闘は日本国中が大きい盛り上がりがありました。

令和元年が私たちにもたらしたものは?

一方、消費税の税率アップは実施が見送るか混迷しましたが、矛盾だらけの軽減税率等の訳の分からない弥縫策が連発され政府にとってみれば三度目の正直といったところでしょうか、税収の安定が国民生活の向上に果たして寄与するかは疑問なところ。消費税には逆進課税要素が強く低所得者層に与える厳しい影響は大きいと言わざるを得ませんし、さらに直近に浮上した「桜を見る会」での首相自らのスキャンダルもみ消しのためしか見えぬ財政赤字を無視した大幅な経済政策の発表は一体誰のための政策なのでしょう。昨年も相変わらずの地球温暖化による気象変動、地震や台風などによる

のは子供以下の仕事で責任ある大人がなすべきことではありません。さて、眼鏡業界においては昨年も申し上げた通り、永年の懸案であった資格問題が技能検定制度を活用する形でいよいよ解決されるのではと大いに期待されると共に眼鏡技術者の技能検定の実施への具体的課題の処理が進展していると聞いています。



愛知県眼鏡小売商協同組合 理事長 平岩 幸一

眼鏡技術者が技術と知識レベルの向上に励む環境を作ること、すなわち眼鏡技術者の資格の確立が生活者により良いQOVを提供することに大いに貢献すると考えられます。眼鏡技術者が生活者に対して国民的健康的かつ文化的な生活にこれまで以上に寄与できる事は私たちの資格の確立以上には大切なことです。公的資格を有する技術者として従来以上に責任を持つて仕事ができることは私たちに於いて大いに誇りです。将来の眼鏡業界を担う次世代の若い方々のためにも一刻も早い実現が望まれます。

併せて皆様方には本年年度の愛知県眼鏡小売組合の各種事業に昨年同様、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

は子供以下の仕事で責任ある大人がなすべきことではありません。

さて、眼鏡業界においては昨年も申し上げた通り、永年の懸案であった資格問題が技能検定制度を活用する形でいよいよ解決されるのではと大いに期待されると共に眼鏡技術者の技能検定の実施への具体的課題の処理が進展していると聞いています。

眼鏡技術者が技術と知識レベルの向上に励む環境を作ること、すなわち眼鏡技術者の資格の確立が生活者により良いQOVを提供することに大いに貢献すると考えられます。眼鏡技術者が生活者に対して国民的健康的かつ文化的な生活にこれまで以上に寄与できる事は私たちの資格の確立以上には大切なことです。公的資格を有する技術者として従来以上に責任を持つて仕事ができることは私たちに於いて大いに誇りです。将来の眼鏡業界を担う次世代の若い方々のためにも一刻も早い実現が望まれます。

併せて皆様方には本年年度の愛知県眼鏡小売組合の各種事業に昨年同様、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

強固な基盤を築く年に

皆様方にはお健やかに新春を迎えられましたこととお喜び申し上げます。平素は組合並びに組合員各社に対して温かいご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年5月、新天皇のご即位と改元が行われ、平成から令和へと新しい時代を迎える中、我が国経済は、個人消費の動きが未だ力強さを欠くものの、世界経済の改善を受けて生産やインバウンドを含めた観光需要が底堅く推移するなど、総じて緩やかな回復基調が続き、民間需要を中心に景気が回復が期待されています。しかし大企業と中小企業との格差は拡大傾向にあり、特に中小企業・小規模事業者は、企業間競争や消費低迷により、業況が一段と悪化し、厳しい経営環境を余儀なくされています。加えて、昨年も自然災害が多発し広域停電や交通インフラの機能不全を引き起こしました。10月に本土を直撃した大型台風19号への被害対策などへの課題もあり、先行き不透明な状況が続いております。

こうした中において、今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。また2025年万国博覧会が大阪で開催されることになっており、大阪府・大阪市が、万博会場となる夢洲に万博開会と同時に開業を目指して、統合型リゾート施設(IR)の誘致を進めております。実現の見通しが立てば、これから道路、鉄道等のインフラ設備も大きく進み、その経済効果もあって、大阪・関西の景気浮揚に大きなインパクトを与えるものと期待されております。

私共眼鏡業界でも、長らく続く経済低迷による消費抑制や消費者の低価格志向による消費マインドの変化により、厳しい市場環境が続いておりますが、当組合では、組合事業の核として、また業界の振興対策の一環として、毎年春にEGF展 秋にIMF展でフレーム・サンングラス・ファッショングラスに、眼鏡機器及びその他付属品を加え眼鏡総合展とし、内容をグレイドアップ



大阪眼鏡卸協同組合 理事長 開高 みどり

されることになっており、大阪府・大阪市が、万博会場となる夢洲に万博開会と同時に開業を目指して、統合型リゾート施設(IR)の誘致を進めております。実現の見通しが立てば、これから道路、鉄道等のインフラ設備も大きく進み、その経済効果もあって、大阪・関西の景気浮揚に大きなインパクトを与えるものと期待されております。

私共眼鏡業界でも、長らく続く経済低迷による消費抑制や消費者の低価格志向による消費マインドの変化により、厳しい市場環境が続いておりますが、当組合では、組合事業の核として、また業界の振興対策の一環として、毎年春にEGF展 秋にIMF展でフレーム・サンングラス・ファッショングラスに、眼鏡機器及びその他付属品を加え眼鏡総合展とし、内容をグレイドアップ

プ。当組合員を通じ、小売店にこれらの斬新な情報を提供、販路の開拓と活発な取引の伸長を図ることとしています。

本年も5月、11月に両展示会を開催することにしております。今後とも各業界の皆様方との絆を一層強め、相連携して業界の活性化に取り組んでいきたいと考えておりますので、何卒一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

また、私共組合は昭和24年に設立されてから、昨年70周年を迎えました。歴史を積み重ねることができたのも、業界の皆様方のお力添えがあつてのことと思っております。今後新たな歴史に向けてさらなる飛躍をめざし前進していきたいと考えております。

本年も我々中小企業にとって、まだまだ気を抜けない厳しい年となると考えられますが、新しい年を迎え組合活動の原点に立ち寄り、組合として相互扶助の精神を貫き、組合の果たす役割を再認識し、組合員企業の発展と眼鏡業界の活性化に全力で立ち向かってまいりたいと考えております。

最後になりましたが、今年一年が眼鏡業界にとって大きな前進の年であり、また、将来に向けて強固な基盤を築く年となりますよう、ご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



(一社)福岡県眼鏡協会 会長 竹内 良造

昨年中は福井産地及び福井県眼鏡協会に対して多大なるご支援とご協力を賜り誠にありがとうございました。

昨年を省みますと全般的には停滞した景気の年であったのと、福井産地での生産が予想外に滞った一年の様に思われます。その主なる理由としては、日本製の眼鏡枠が極端に複雑となり工程数が大きく増え、その上に加工難度が高くなった事、更に小ロット対応でのスムーズな生産の難しさが挙げられると思います。

他方、海外資本の流入であったり、事

SDGsの推進と合わせて眼鏡産地発展と

業継承の形式が変化したり、従来には無い変革の時に入っている様に感じます。今年中には更に「明確な姿・形」が見えて来ると思われま。

福井県眼鏡協会としては、この様な変革に対してどの様に対処するか!福井・鯖江の産地として「産地の有り方」が主なテーマに成ると思っています。メード・イン・ジャパンの表記や、又、福井・鯖江の製品である、の表示や信頼性をどの様に表すか、その基準や審査を正しく行って消費者に分り易い表記をどうするか、トレーサビリティも含めてこの様な内容を構築して行く必要があると考えています。福井産地内でキッチンと論議して行きたいと思っています。

一方、昨年年末に、国連の「持続可能な開発目標・SDGsジェンダー平等実現」の拠点を設置すべく、鯖江のめがね会館9階に準備室が新設されることを発

表いたしました。幾つかの候補地があった中で、鯖江市が数年來、取り組んできたテーマが認められた結果と確信しております。

これを契機として、私達の眼鏡産業の発展とSDGs推進を並行して推し進め福井・鯖江ブランドを全国的に更に認知して頂き、いはば、日本製眼鏡フレームの世界的な位置付けをより強固なものにして行けたら、と考えています。本年2月には東京ガールズコレクションにおいて「メガネ・ファッションとSDGs」の発表が行われます。鯖江市と一体となって消費者の皆様にごアピールをし、啓発して行く予定です。

本年もグローバルな経済の中では米中の貿易摩擦や日韓関係の悪化も有り、消費マインドの落ち込みも含めまして飛躍的な経済活動の伸びが望めない様に感じますが、各種眼鏡関連団体の皆様と協調しながら福井産地を盛り上げて行ければと思っております。本年も福井産地に対してのご支援ご協力を重ねてお願い申し上げます。

メガネの技術者に国家資格を 眼鏡技術者国家資格推進機構 代表幹事 岡本 育三 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-13-11 油断工業会館6階 TEL 03-5203-1662 FAX03-5203-1663 URL=http://www.megane-license.org/ E-mail=info@megane-license.org

協同組合輸入眼鏡協会 代表理事 山岸 浩一 会長 竹内 良造 会員 一同

一般社団法人福井県眼鏡協会 会長 竹内 良造

東京眼鏡卸協同組合 理事長 蟹江 一郎

中部眼鏡卸協同組合 理事長 小林 成年 組合員一同

大阪眼鏡卸協同組合 理事長 開高 みどり